

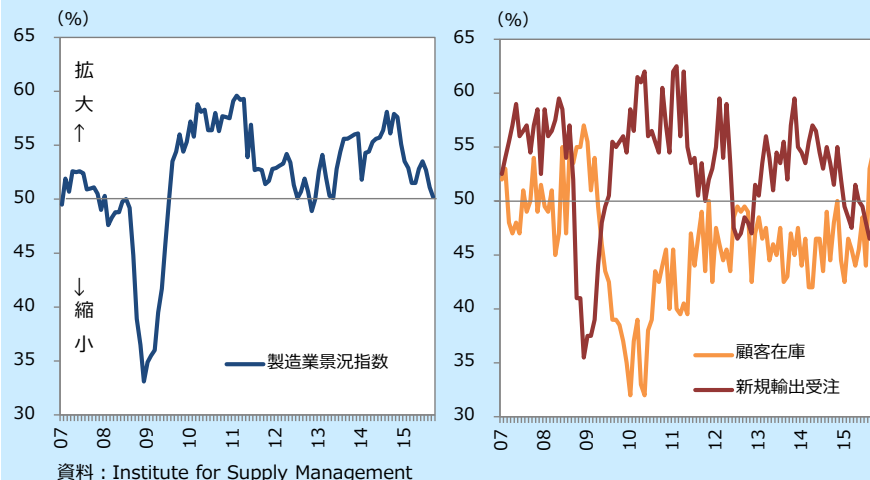
米国：ISM景況指数（2015年9月）

— 製造業の景況感は50割れ目前 —

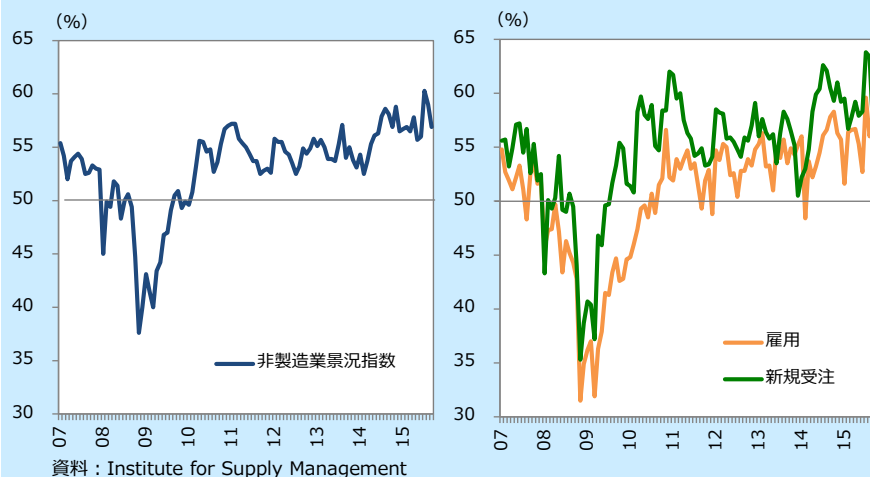
MRI Daily Economic Points

October 6, 2015

図表1 ISM 製造業景況指数



図表2 ISM 非製造業景況指数



評価ポイント

今回の結果

- 15年9月のISM製造業景況指数(米供給管理協会、10月1日公表)は、50.2と3ヶ月連続で低下。拡大と縮小の境目となる50を辛うじて上回ってはいるものの、13年5月以来の低水準となった。
- 同指数を構成する5指標のうち、4指標が低下(残る1指標は横ばい)。新規受注が50.1と12年11月以来、生産も51.8と13年5月以来の低水準となった。雇用、入荷遅延も低下した。
- また、同指数構成外の項目ではあるが、ドル高や新興国経済の減速により、新規輸出受注も低下傾向にあり、12年7月以来の低水準となった。顧客在庫も54.5と8月以降に急上昇しており、09年1月以来の積み上がり状況にある。
- 15年9月のISM非製造業景況指数(米供給管理協会、10月5日公表)は、56.9と前月(59.0)から低下。2ヶ月連続の低下となったものの、高水準は維持しており、均せば改善傾向を維持している。
- 同指数を構成する4指標のうち、企業活動と新規受注が低下した。新規受注が56.7と前月(63.4)から大幅に低下しており、7ヶ月ぶりの低水準となった。一方、雇用は上昇しており、06年以降で2番目に高い水準となった。

基調判断と今後の流れ

- 製造業の景況感は、ドル高や新興国経済の減速などを背景に悪化傾向にある。一方、非製造業の景況感は、堅調な内需を背景に改善傾向が続いている。
- 今後の注目点は、①製造業の景況感が50を割り込んで悪化を続けるか、②製造業の悪化が非製造業の景況感にどの程度波及するか、であろう。
- 先行きの景況感は、雇用・所得環境の改善を背景に、非製造業を中心に改善を維持するとみる。ただし、中国経済や資源国経済が一段と下振れれば、製造業の景況感は50を大きく割り込み、運輸・卸売業をはじめ非製造業の景況感にも広く波及するリスクには注意が必要である。